ZOOM・ずーむ @スタッフ

Vol.16

静岡市

静岡共立クリニック 臨床工学技士長 平林 泰司さん

温暖な気候、そして富士山をはじめ美しい山々と海に恵まれた静岡共立クリニック。近くには緑いっぱいの県立美術館、またロダンの彫刻館など、豊かな芸術に囲まれています。

「技士として25年、今が一番充実しています」真摯な目で、力強く語る平林さんは、偕行会静岡の3つのクリニック全体の技士長として、日々忙しく飛びまわられています。

看護師だった母の姿を見て興味をもった医療の世界で、好きな機械にも携われる臨床工学技士の道を選ばれました。その時母からの“自分がこれだと感じた道を進みなさい”という一言その言葉を今も大切にしているそうです。

「臨床工学技士という仕事は、患者様に安心を提供する仕事です。ですから“いてくれて良かった。ありがとう”という言葉を頂くことが何より幸せです。機器管理や技術だけでなく、人間としても信用してもらいたい。そのためにはふれあいが大切ですから、できるだけ患者様とお話するように努めています。今後は合併症についても対策だけでなく、すでに病変のある患者様への新しい治療方法なども、どんどん提案していきたいと思っています」。

静岡共立クリニックのみなさん

「技士長としては、若い技士たちの育成に特に力を注いでいます。静岡共立クリニックの自由な気質の中で、彼らが技士として“やりたいことができる環境”を作ってあげたい。技士たちの生き生きとしたやる気が、患者様にも良い結果を生むと思います」。

静岡共立クリニックの近くの
静岡県立美術館
www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/

ロダンの考える人。
ロダン館では国内随一のロダン彫刻のコレクションを所有している。

ちょっとひと言

4人の子供のステキなお父さん

夜勤明けでも、朝食時には必ず子供たちの顔を見るようにしています。今年の冬は10年ぶりに家族でスキーを楽しみたいですね。

お父さんに向かって「はい、ポーズ」

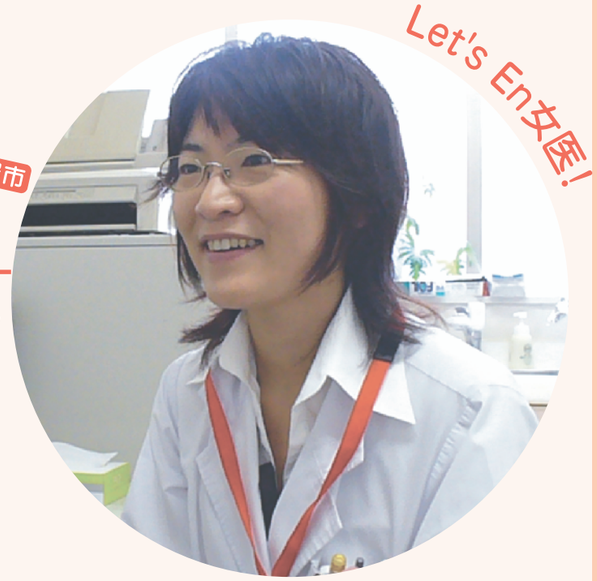
ZOOM・ずーむ @スタッフ

Vol.17

名古屋市

偕行会セントラルクリニック 医師 加藤 朋美さん

Let's En女医!



自分の性格を一言で言えば“知りたがり”とおっしゃる加藤朋美先生は、医師となって12年だそうです。大学院では腎障害における補体（抗体機能を補足する物質）などの研究を続け、また、高齢者の病気について、その原因や治療法、予防法などを研究する老年医学にも携わりました。

「研究だけでは、視野が狭いことに気づきました。だから、今は臨床医として感じたものを透析治療の研究にフィードバックできればと思っています」。

別の病院にいた頃は忙しすぎて、何か言いたそうにしている患者様の話にじっくり耳を傾けることができませんでした。だからセントラルクリニックでは、回診に充分な時間をかけています。

「私が何でも言う代わりに、患者様も言いたいことは何でも伝えてもらいたいのです。透析治療の患者様には生活の中でほんのちょっと我慢をしていただかなくてはなりませんが、それ以上に医師側にも患者様に対する細かな気配りが必要だと思っています。その点で女性の医師というのは、この分野に向いているかもしれませんね」。

偕行会セントラルクリニック

手作りのの作品がカウンターの季節感を演出。

透析は命に関わる大変な治療。医師は色々なケースを知るからこそ、少々うるさいことを言ってしまいがちです。

だからこの取材を機に患者様にどうしても伝えたい一言があります！

「いつも叱ってゴメンなさい」。

ちょっとひと言

オペラと第九に挑戦

学生時代合唱部で、今はオペラを習っています。去年の夏は名フィルのマーラーに参加。今年は第九にトライしたいな。